

ゼオマイン[®] 筋注用による 上肢痙縮・下肢痙縮治療を受ける 患者さんのご家族のみなさまへ

ゼオマイン[®]とは

ゼオマイン[®]は、ボツリヌス菌がつくり出すA型ボツリヌス毒素（一般名：インコボツリヌストキシンA）を有効成分としています。緊張している筋肉にこの薬の成分を注射すると、筋肉がゆるんで緊張やけいれんがおさまることが、さまざまな研究の結果よりわかっています。

ゼオマイン[®]の効果

- この薬は、成人の上肢痙縮・下肢痙縮の症状を和らげる治療として、緊張している複数の筋肉に直接注射します。その効果は通常12～16週で消失します。効果が無くなってきた時にはあらためて注射します。あらためて注射するときの間隔は12週間以上ですが、症状に応じて10週まで短縮できます。



ゼオマイン[®]による治療前にご注意いただきたいこと

▼ 次の方は治療開始前に医師・薬剤師にご相談ください ▼

- 全身性の筋肉の脱力などの病気（重症筋無力症、ランバート・イートン症候群など）、または筋萎縮性側索硬化症（ALS）がある人
 - この薬や、同じ成分の薬を以前に使用し、しっしんが出るなどのアレルギーを経験したことがある人
 - 以前、または現在、他の医療施設でボツリヌス毒素の投与を受けている人
 - 筋力の低下・萎縮などの病気（手足に力が入らない、スムーズに歩けない、物を落としてしまうなど）がある人
 - 市販薬を含めて、他に使用中の薬剤がある人
- 【注意が必要な薬剤】** ※ゼオマイン[®]の効果が強くあらわれることがあります。
- ・筋弛緩薬・抗生物質（アミノグリコシド系、ポリペプチド系、テトラサイクリン系、リンコマイシン系）
 - ・パーキンソン病の治療薬・精神安定剤・他のボツリヌス毒素製剤 など
- 妊婦または妊娠している可能性がある女性、授乳中の女性



ゼオマイン®による治療中にご注意いただきたいこと

- この薬を投与したことにより、投与部位以外の部位に影響が出て、会話がしにくい、食べ物や水が上手く飲み込めずむせる、また誤嚥により肺炎になってしまうことがあります。投与開始から16週間までにこれらの症状をはじめとして体調に変化が生じた場合、直ちに医師の診察を受けてください。
- 他の医療施設でボツリヌス毒素の投与を受けた場合は、治療の目的や投与日を必ず申し出てください。
- 妊娠する可能性のある女性は、投与中および最終投与後16週経過するまでは避妊してください。
- この薬を投与した後、脱力感、筋力が低下するといった症状があらわれることがあるので、自動車の運転など危険を伴う機械を操作する際はご注意ください。

〈下肢痙縮の方〉

- 筋力バランスの変化などにより、転倒などが起こりやすくなる可能性があります。

ゼオマイン®の副作用

■ 重大な副作用 ■

アナフィラキシーを含むアレルギー反応が起こる可能性があります。
息苦しさ、皮膚の赤み、急な皮膚のはれ、じんましん、吐き気などがあらわれた場合、直ちに医師の診察を受けてください。

■ 主な副作用 ■

皮膚	赤い斑点ができる、しっしん、じんましん、皮膚のあれ
消化器	食べ物や水を上手に飲み込めない、便秘
筋骨格	筋力低下、筋肉の張りの低下、筋骨格・関節・手足の痛み、手足の不快感
注射部位	内出血
精神神経系	まひ
泌尿器	頻尿、尿がでにくい、排尿後に少し漏れる
その他	ろれつが回らない、手足のむくみ、転倒、体がだるい、皮膚の痛みと熱を伴った赤いはれ、関節が痛くて曲げにくい

■ 薬の作用が強くあらわれた場合に生じる主な症状 ■

- 全身の筋力低下
- 物が二つに見える
- ことばがでない
- まぶたが開きにくくなる
- 呼吸困難
- 食べ物や水が上手く飲み込めず、むせる など
- しゃべりにくい

上記以外でも気になる症状があらわれたときは、
医師・薬剤師に連絡してください。